

Urban Design Lab. Magazine

2015.09.30 vol. 233



西村研の夏休みを覗く

HAVE A LOOK AT THE PROJECT ACTIVITIES IN THE SUMMER BREAK!

バンコク、海外学生との挑戦 p.2
各プロジェクト鋭意活動中! p.6
研究室メンバーの個人プロジェクト情報 p.10

東京大学
工学部都市工学科/
工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/>

今月の編集担当：中井雄太 今川高嶺

編集長：今川高嶺

編集委員：中島健太郎 高橋舜 中井雄太

黒本剛史 砂塚大河 富田晃史 王誠凱



Concept Social Laboratory
 Suggest the Implication and Practice advanced approaches to social problems in the site with making use of its potentials

Social Laboratory Association:

WHAT TO DO?
 Coordination, Research Institute, Information Supplement, Funding, Education (workshop, lecture)

PARTICIPANTS
 Residents, Private sector, Local government, NPO, University etc.

▲ GroupA: Socia Laboratory

バンコク、海外学生との挑戦

The Challenges with foreign students in Bangkok

Our Lab members joined International Workshop on Urban Regeneration of Makkasan Redevelopment, Bangkok from 4th to 11th August 2015 at Bangkok Thailand.

*

Makkasan is a large plot by the State Railways of Thailand which is located in the heart of Bangkok. However, it has not been developed to its full potential yet and still be the major obstacle in connecting with the surrounding areas due to its function as the Maintenance and Service Centre of Railways System and the limited access to the area from the surrounding areas. A Airport Development Project leads to the Airport Rail Link which turned Makkasan Plot into the City Air Terminal, however the service did not succeed due to the incompleteness of the rail network, and the struggling mega project called "Makkasan Complex".

some people needs more public use of this area. Makkasan Plot is considered as one of the opportunity areas for Urban Regeneration. The objective of this Workshop is to create a practical proposal with the demand of meeting the needs of every party equally in regenerating Makkasan Plot and this surrounding areas. (Edit: M2 Imagawa)



	Schedule
1 st Arrival/check-in	09:00-12:00: Workshop 12:00-13:00: Lunch 13:00-16:00: Workshop
2 nd Greeting and lecture, Site Visit and Welcome Dinner	
3 rd Workshop	
4 th Evaluated and discussed by guest	
5 th	
6 th Evaluated and discussed by guest	
7 th	
8 th Final revision / Exhibition production	
9 th Fina Presentation and Discussion, Cosing and Party	

CONCEPT
 GREEN + LIFE → GREENING OF THE LIFE
 GREEN is a place where people perform actively.
 We have 3 principles to realized this concept.

- I INTERACTION
- II ECO-FRIENDLY
- III CROSS-SUBSIDY

▲ GroupB: GREENING THE LIFE OF BANGKOK

Vision The Heart of Bangkok
 means not only the physical location, but a metaphor of the heart in a human body.

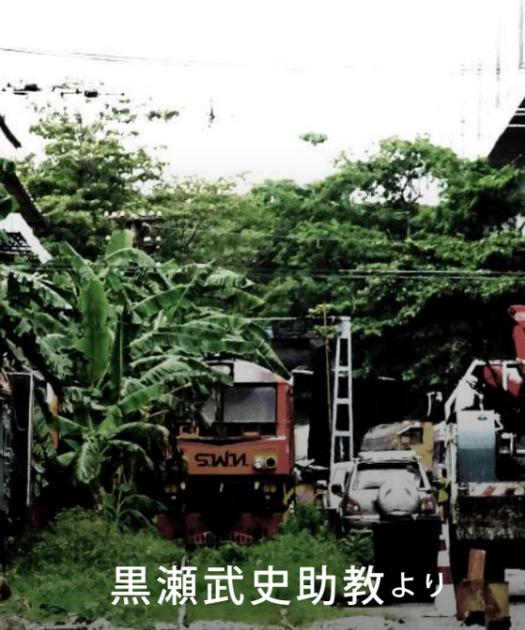
Function of human heart gather and distribute BLOOD to a whole body as a pump.
Function of Makkasan gather and distribute ENERGY to Bangkok as a pump of the city.

Green enhances both human Creativity and Connectivity of people, businesses and the areas. People with Creativity and creative places attract various people, and it leads to increasing Connectivity. This circulation produces something new, such as new industry, talented people, etc. That is, it works as a "heart" and generates energy to Bangkok.

Strategy Layers of functions
 In order to keep connectivity of varied functions and people, we propose "layers of functions". Functions can be overlapped, and variations of usage will be mixed in each part of the area.

Phasing Development
 Phasing enables to develop gradually, in order to correspond user's demand in the future. In each phase, each part of the area will develop including various functions, so in any phases, various activities can occur.

▼ GroupC: The Heart of Bangkok



黒瀬武史助教より

一 WSの経緯と目的について

前任の阿部先生の時から GCOE の国際 WS プログラムがあり、それを引き継いでいる。2010.11 年は台北、2012.13 年はバンコク、2014 年は築地と積み重ねてきた。12 年からは UEHAS(アジア都市環境保健学際コンソーシアム) のプログラムとして継続させて頂いている。

目的の一つは異なる教育を受けてきた学生と混成チームを組み、どうやって短時間で案を決めてプレゼンできるかという事。批評も日本側の城所先生や私だけでなく、タイ側の先生方も参加してくれるので、全く違う視点が得られる。

もう一つは、短期間で知らない国の知らないまちの事を勉強し、どう使えるかという基本的な訓練。お互い言葉だけでは十分に伝わらない環境では、簡単な図を描きながら議論する機会も増える。

あと、何年もやっていると二年連続で参加してくれたり、友達や彼女を作ったり、日本に観光に来てくれたり、人同士で繋がりが出来ていくのが個人的にいいと思う。

一参加した学生に対して

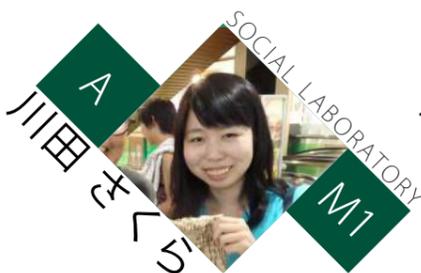
バンコクの抱えている社会的な問題を短期間で考えていてテーマ自体はタイの先生にも評価してもらった。課題が残るのはそのテーマだからこの形になったという説明が弱いところ。タイの学生は形にするのが早いという。一方で、日本の学生はコンセプトの議論にこだわる。そのギャップを十分埋める時間がなくて、コンセプトとデザインの間が埋められなかった部分があったと感じた。これは毎回感じる課題ですね。特に今回の敷地は操車跡地のため、団地のような暮らしが見られる機会がなかったので、タイの暮らしに関する議論が発展しなかった。

一都市工の学生に向けて

コンセプトとデザインを結びつけるのは難しいが絶対にやらなくてはいけない。大学院では、実在する都市を対象にしたアーバンデザインスタジオを、しっかり充実させていかなければいけないと思っている。



▲対象地の模型を囲んだ話し合いと、カフェでの各班のグループ作業の様子



一10日間の挑戦

A グループは、バンコクが抱える様々な社会問題(経済格差や環境汚染、健康など)に取り組む "Social Lab." という「機能」の構築に焦点を当てました。タイ社会の将来をどう描くか、また機能というソフトの部分とどのようにハードの設計に組み込んでいくか、とても難しい課題でしたが、その分得たものも大きかったです。

一医療ツーリズムを実感

滞在中に熱を出してかかった病院が世界的な医療ツーリズムの拠点でした。スラムに隣接した高級ホテル顔負けの病院に様々な国の富裕層が訪れている様子は衝撃的でした。

一専門分野を深める

専門分野についてより深く勉強し、その内容をいろいろな人と共有・議論する場を持っていきたいと思っています。



一初めての海外WS

考えていることを英語で伝えるのはとても難しかったです。お互いごちない英語を必死に聞き取り意図を理解することで、なんとか提案を形にすることが出来ました。タイに来てまで徹夜するとは思っていませんでしたが、海外に同じ分野の研究をする友達ができたのは私にとって大きな収穫です。ただ、もう少しバンコクについて勉強していけばもっと面白かったのではと反省しています。

一ゲイタクシーでハイクラスな病院へ

現地では Dengue 熱のような症状がでて、私史上最高クラスの病院へ(保険のおかげでタダ)、黒瀬先生にアタックするゲイの運転手さんのタクシーで向かうという、ある意味貴重な経験もしました。

一世界で活動できる機会を逃さないように

タイ語は全く分からないけれど、英語ならタイ人も意思疎通ができる。これからは英語をもっと使って、いろんな国の人と一緒にプロジェクトをする機会を逃さないようにしたいと思っています。



▲各班の最終プレゼンテーションの様子と参加者全員の集合写真



一唯一の学部生参加者として

学部生ながら、偶然同じ時期にバンコクに滞在しており、WSに参加させていただきました。本当にありがとうございました。

一議論で国の違いを実感

タイ人の学生、本当に優秀でした。もりもりパースが上がってきます。脱帽です。日本人学生がコンセプトを練る議論が大好きなのに対して、タイ人はとにかく先に手が動く感じ。あとは当たり前のことですが国が違えば常識が違うというのはホントのことで、我々日本で都市デザインを学ぶ学生が往々にして繰り出す秘伝の技「現在捨てられている高架下をクリエイティブスペースとして再開発しちゃおう」という案に対し、タイ人から「それどうやって治安が維持されてるの?」「スラム化するから無理」などボツを喰らったりしました。国の事情をわかった上でデザインする難しさを感じました。

一卒業研究に向けて

卒業研究を台湾を舞台に進めていこうと思っています。今回の経験が間違いなくどこかで生きるはずだと期待しています。



一初めての東南アジアの国で

自分にとっては東南アジアの国を訪れたのが初めてで、バンコク・タイについてはニュースで見聞きする程度の知識しかありませんでしたが、今回その都市の中で実際に現地の学生とその都市の計画を考えたことで、エネルギーなこの都市の一端を体感することができ視野が広がった10日間でした。

一黒瀬先生の誕生日

黒瀬先生の誕生日が期間中にあったのでお祝いする企画が裏で進められましたが、タイの学生がかなりのってくれ協力してくれました。

一振り返りを少しずつやりたいです

今回現地で見聞きし体験したことを様々な面から咀嚼し直して、この先の人生で都市について考える時にちゃんと使える知見にしたいです。

※なお、上記の他に都市デザイン研究室からは M1 砂塚大河がグループ B に参加していました。



▲最終日の観光で訪れたワットポー



▲最終日のタイの学生との交流



▲最終日の観光の様子



▲トゥクトゥク最高!



▲Aグループはタイの学生から記念にボクサーパンツをもらいました



▲観光をするC班のメンバー

Sightseeing between Workshop

ネパールプロジェクトでは、今年度3つのプロジェクトを進めています。

①ユネスコプロジェクト/ルンビニ：地域保全計画の立案に向け、現段階では遺跡群の地図化を行っている。

②アジア開発銀行（ADB）プロジェクト/ルンビニ：国際空港化に伴い、世界遺産までの電気自動車導入計画をサポート

③東文研（東京文化財研究所）プロジェクト/カトマンズ：2015年4月に発生した地震の復興支援調査に都市計画チームとして

東文研プロジェクトの現地調査
9/14-22

<カトマンズ>
11/下旬 東文研PJ第2回現地調査

<ルンビニ>
1/下旬 ユネスコ International Scientific Committee 第3回会議
2/下旬 東文研プロジェクト最終報告書



連絡先：M1 川田さくら (skawata@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

東日本大震災後、都市デザイン研究室では大槌町赤浜で、町の文化資源、震災前の生活風景、震災時の避難行動、復興計画の策定に伴う空間提案に関する調査を行った。調査による知見を多くの人と共有する試みも行ってきた。

亡くなった方の人となりや家族や友人に何い、後世に伝えることを目的とした「生きた証プロジェクト」を昨年度から大槌町が始めた。今年度も赤浜集落を担当し、地元の方の協力を得ながらお話を伺っている。

生きた証プロジェクト調査
7/18,9/15

9/27-29 生きた証プロジェクト調査
10/16 プロジェクトの振り返り



連絡先：M2 益邑明伸 (masumura@td.t.u-tokyo.ac.jp)

静岡市にある清水港は貿易港として長い歴史を持っており、現在も昔の名残が見られます。例えば石造りの倉庫群は、蔵と近代的な倉庫の過渡期（昭和初期）に作られたもので、瓦屋根、木造石積みといった特徴を持っています。こうしたまちに潜む資源を活用し、歴史を感じるまちづくりを進めていく事が清水PJのねらいです。現在は、地元の市民団体、大学、住民の方々と協働して、イベントの計画・運営や調査研究を行っています。産業遺産や港のまちづくりに関心のある方、是非MTGにお越し下さい。

夏の夕方さんぽ開催しました！
8/29

10/ ミナトブンカサイ準備
10/18 ミナトブンカサイ
…その後の予定の詳細はミーティングにて

☑清水プロジェクトの近況はFacebook ページ「しみずシリーズ」をチェック！



連絡先：新領域 D1 望月美希 (mochi815@gmail.com)



さまざまな都市、それぞれのプロジェクト。



各プロジェクト、鋭意活動中！

Interim Report of Urban Design Lab. Projects.

現在、都市デザイン研究室では多くのプロジェクトが盛んに活動しています。そこで、今回はその中でも夏期にイベント・調査活動等があったプロジェクトについて、近況報告と題しまして簡単な中間報告と今後の展望に関する報告をしてもらいました。本企画では、ウェブマガジンでは拾いきれていない、プロジェクト全体の概要と現時点での目標、そして今後の展望を把握することができ、さらに9月に入学される都市デザイン研究室の新メンバーへのリクルート記事にもなっています。もし各プロジェクトの詳細な情報について知りたい場合、プロジェクトに参加したい場合は、各プロジェクトに掲載してある連絡先へ連絡をしていただくようお願いします。

今回の特集記事を作成するにあたりまして、お忙しい中写真や原稿などの提出にご協力いただきました、都市デザイン研究室、地域デザイン研究室、空間デザイン研究室の各プロジェクト担当者様、ご協力ありがとうございました。

(なお都市・地域・空間デザイン研究室のプロジェクト全体についてより詳細に知りたい場合は、都市デザイン研究室のマガジン編集部員にお問い合わせください。今年度初めに行われた「2014年度プロジェクト報告会」の資料をお渡します)(編集：M1

私達は、担い手とこれからの佐原ということに着目して、「高校生によるまちづくり活動」の支援と「佐原未来予想図」に向けた活動を続けています。現在は担い手に着目して、佐原を支えている様々な方のお話をお聞きしながら、「失われつつあるものは何か」「佐原にとって大事なものはなにか」「それを未来に繋げるためにはどうすればよいか」ということを考え、提案し、議論する場を作りたいと思っています。



佐原未来予想図
集中インタビュー
8-9月

10/ 秋の大祭での「佐原未来予想図」の展示
10/ 佐原建物公開イベント（高校生との協働イベント）
11/ 佐原まちなか文化祭イベント（高校生と協働イベント、空き家活用）
3/ 報告書作成
3/ 発表会

連絡先：M2 今川高嶺 (t-imagawa@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

三田 PROJECT

日本海側・九頭竜川の河口に位置する湊町、福井県三国。かつては北前船の寄港地として、豪商の店が連なる賑やかな街だった。しかし明治期以降、物流の主体が船から鉄道・車へと変わり、中心市街地は衰退の一途を辿っている。中心市街地に新たな活力を与えるべく、福井大学や地元まちづくり会社とともに実際に2軒の空き家の改修設計から企画運営までを行い、さらに場所を利用しながら、まち全体のまちづくりのビジョンを策定する。



夏の1週間集中調査・祭の調査
8/24-30

10/5,6 現地調査・企画打ち合わせ
| ストリーム企画・準備
| ビジョン策定に向けた仮説提示
10/24,25 三国湊～東尋坊ストリーム
11/ ストリームにて仮説検証・分析
12/ 三国のまち全体のまちづくりビジョン策定
| 空家改修(運営・利用)の手引作

連絡先：M2 柄澤薫冬 (karasawa@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

神田 PROJECT

私達は、冊子製作を通じた地域資源の発掘と20年後の担い手づくりをテーマに活動しています。その背景には、今後20年の間に、神田では世代交代や新規住民の急増、空間変容等が起き、神田の人々が地域に根ざして繋いできたものが失われるのではないかという危機意識があります。現在は、神田多町二丁目に着目して、そこで暮らす方々のお話を伺いながら、それらを考えるきっかけとなるようなまちあるきや冊子製作の準備をしています。



神田暮らしインタビュー調査
8-9月

10/30-31 神田多町二丁目のまちあるきツアー実施
10/31- TransArtsTokyo への出展～アーバンキャン情報センター
11/28 千代田まちづくりサポートでの中間発表
1/ 冊子製作
2/ 冊子配布・発表会

連絡先：M2 羽野明帆 (hano@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

小田原市・松本市現地調査

7/31,9/14-16



今年度は都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画を取り上げ、持続可能且つ快適な生活環境を実現していくにあたりどのような都市像が描かれるべきなのか、昨年度得られた知見等をもとに検証を行う。また現在立地適正化計画の作成について具体的な取り組みを行っている都市を対象に、現地でのフィールドワークや行政の担当者との意見交換などを実施する予定である。

連絡先：M2 高橋舜 (shtak@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

近代の幕開け以降、過去に例を見ない人口増加・都市成長を経験したのが20世紀という時代であった。しかし21世紀に入り人口減少時代の都市計画が検討される中、そうした過去100年間に形成された都市基盤の更新活用が期待されている。20世紀に創出された都市空間で今後も活用できるものと評価すべきストック＝「20世紀都市遺産」という概念を構築し、都市ストックの評価と継承を理論化することが本プロジェクトの目的である。

二十世紀都市遺産

三地区連続ワークショップデー

9/27



10.11/ 模型・パネル作成
11/17-29 魅力ある街のデザイン展
11/23 シンポジウム(基調講演：伊藤香織先生)+WS
12-2/ 提案とりまとめ
3/ 最終報告書提出

連絡先：中島直人准教授 (naoto@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

富士山の麓の御師まち・上吉田地区にて、富士吉田市からの委託を受けて、歴史文化資源・街並み調査などに基づいて「多くの市民が誇りに感じられるこれからのまちの具体的な将来イメージ」を提案することを目的に活動しています。残念ながら現在メンバーに東大生はいませんが、昨年度まで中島研に所属していた慶應の院生、学部生達と、建築家の田中大朗さん、トータルメディア開発研究所の松山昌弘さん、中島直人准教授という体制で取り組んでいます。

富士吉田 PROJECT

地域デザイン・空間計画研究室のプロジェクト

Spatial Planning & Design Lab. & Territorial Design Studies Unit Projects.

この度、都市デザイン研究室のプロジェクトの中間報告として各プロジェクトに活動内容を報告していただいておりますが、多くの都市デザイン研究室のメンバーが地域デザイン研究室(窪田研究室)と空間計画研究室(出口研究室)のプロジェクトにも参加していることを踏まえ、簡単な形ではありますが各プロジェクトの紹介をしたいと思います。なお、詳細のメンバーや近況の活動報告等を知りたい場合、プロジェクトに参加したい場合につきましては、各プロジェクトの連絡先へご連絡するようお願いいたします。(編集：M1 中井)





研究室メンバーの個人プロジェクト情報

Introduction of Urban Design Lab. Members' Personal Projects.

前ページまでは研究室内の活動について報告してきましたが、都市デザイン研究室のメンバーの一部は、研究室内に留まらず個人でも積極的に活動をしています。本記事ではメンバー個人の活動の一部をご紹介します。(編集: M1 中井)



たなカー & ぶらっと
高齢化する都市の豊かな縮小を描く



M2 で始めた活動を、NPO 法人化して継続しています。自治体からの委託事業として、「たなカー&ぶらっと」というコンセプトの下、縮小を余儀なくされる地域のこれからの、住民と一緒に模索しています。柏市では空き地を

パブリックな緑地として機能させること、香取市と津和野町では買い物支援と介護予防の拠点を創出すること、いわき市では将来の地域の担い手となる子ども達に地域について考えてもらうことを目指して取り組んでいます。

NPO法人 urban design partners balloon

連絡先: ryohei@tanacar.co.jp (鈴木亮平) 鈴木亮平



菊水湯の記憶をのこす
東大最奇りの銭湯にまつわる人々の思いを集めています。



東大から最も近い銭湯、菊水湯の営業が2015年9月で終了します。これまで多数の東大生や地域の人々を癒し続けてきた銭湯の歴史が終わるに当たって、菊水湯の記憶を集め、保存するプロジェクトを立ち上げました。ハード面だけでなく、ユーザーの思

いやや記憶、生活の実態などソフト面にアプローチすることを目的としており、現在はネット・紙媒体を駆使して声を集めているほか、今後は菊水湯にまつわる人々のヒアリングを経て、形に残るものを制作してゆく所存です。

「さようなら菊水湯」プロジェクト

連絡先: kikusuiyu.archive@gmail.com 三文字昌也



歌声で人と人をつなぎ笑顔の輪を広げる
気仙沼、演奏活動や交流活動を軸に地域の方々の繋がりを広げ深める女川、中学生との交流活動やアカペラの指導、地域のコミュニティ拠点への訪問

ゴスペラーズの北山陽一氏が代表を務める団体「Always With Smile」(通称 AWS) で、アカペラや合唱の経験を持つ学生が中心となって宮城県女川町と気仙沼市にそれぞれ毎月訪問し、人の声だけで作る音楽アカペラをコミュニケーションツールとして地域との交流を深め笑顔の輪を広げる活動。気仙沼 PJ では仮設商店街「業市場」を拠点に WS や商店街でのライブ、仮設住宅の訪問などを行い、女川 PJ では女川中学校で毎月交流活動や授業でのアカペラの指導を行うほか、地域のコミュニティ拠点や医療・介護施設への訪問も行っています。研究室の PJ のような直接まちづくりを行う活動とも一般的な被災地ボランティアとも性

格の異なる活動ですが、震災から4年半が経ちボランティアも減る中、月一回の高頻度で訪問して見えてくる地域の現状、女川と気仙沼という規模も被災の仕方も異なる二つの都市の復興像や復興状況の違いなどを多く学ぶことができ、また自分の生きがいでもある歌で人の心を繋げられることを実感したり被災地の学校教育の現場に携われたりとは得られない貴重な体験をさせてもらっています。今後はこれを30年間継続してまちの未来に寄与していくことを目標としています。いつの日か復興を遂げたまちを見ながら女川の卒業生達と地魚や酒を囲んで語り合える日が来ることを願っています。

Always With Smile 学生アカペラプロジェクト

連絡先: aws.staff.jp@gmail.com (外部窓口) 滝澤暢之



東京郊外の公共施設の改修案を考える
次の時代の公共施設、まちの中心を住民主体で計画するには



東京都狛江市の市役所に隣接する市民センター(公民館+図書館)は改修を行うことになった。市民有志を中心とした団体は市と協定を結び、来年の3月に向けて市民参加による改修案策定を行っている。設計事務所の若手ボランティアと新領域の環境音響学

研、都市工の国際都市計画・地域計画研、地域デザイン研の大学生が協働し、駅周辺のまちづくりや将来を見据えた公共施設+広場の提案や活動の支援を行った。

狛江の「市民センター」を考える会への提案

黒瀬武史助教 益 昌 明 伊 奈 ゆう 子

M1 旅行に行ってきました!

M1 Students Went on a Trip to Kumamoto!



三角西港排水路 菊池渓谷の吊り橋 裏見の滝: 鍋ヶ滝 天草の大江天主堂

8月20~22日にかけて、都市デザイン研究室 M1 全8名で M1 旅行に行ってきました。本旅行では熊本の自然を満喫しただけでなく、文化遺産や隠れキリシタンの漁村等も訪れ、様々な側面から熊本を満喫してきました。以下、マガジンの一部をお借りして写真で簡単に報告いたします。(編集: M1 中井)



近代化産業遺産群三角西港 崎津集落にて住民と話す 三角西港の簡易裁判所跡



吊り橋から飛び込んだ菊池渓谷 天草にてイルカ 阿蘇の鍋ヶ滝



2015年7月に近代化産業遺産群として世界遺産登録された三角西港と、世界遺産への登録を目指す天草の天主堂群を巡る中でガイドの方だけでなく住民とお話し、暮らしや生業を維持しながら、観光客を小さな漁村にどう受け入れていくかということなどを伺いました。また、阿蘇山とその外輪山の高原・温泉・湧き水、天草の豊かな海と動植物といった、熊本県の自然資源を全身で体感してきました。



プロジェクトや研究などでなかなか日程が合わないデザ研のメンバーですが、今後も早めに予定をおさえて全員で旅行に行きたいと約束し、2泊3日の小旅行は解散しました。おすすめの地域等ありましたら是非 M1 へ教えてもらえれば、有力な候補にしたいと思います。

Information

9月のウェブ記事



9/3 三國會所ワークショップ & 夏の集中調査
8/3-6の三國會所WSと8/24-30の現地調査(29日のイベント「帯のまち流し」以外)に関する報告。



9/5 都市再生に懸けるバンコクの暑い夏。
8/4-11バンコクにて東京大学とタイのチュラロンコン大学の大学院生が共同都市再生提案WSを行いました!



9/29 松本調査 市街地分析から学ぶまちの読み解き方
20世紀都市遺産PJが9月14日~16日に松本市で行った現地調査及びエスキースに関する報告。



9/29 デザOBの先生方、集う!
9月17日、222にて冬学期に開講する西村先生の授業「都市設計特論第一」に講義をされるデザ研出身の先生方との懇親会が開かれました!

是非ご覧ください: <http://ud.tu-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

10月の予定

- 10/9-11 佐原 PJ: 佐原秋の大祭
- 10/24-25 三國 PJ: 三國湊~東尋坊ストリーム
- 10/30-31 神田 PJ: 神田多町二丁目まちあるきツアー
- 10/31-11/3 神田 PJ: アーバンキャンブトキョー

編集後記 中井 雄太

私は大学入学後に旅が好きになり、鉄道や車を駆使して学部卒業までに全都道府県を訪れました。そんな今、私は秘湯巡りにハマっています。先日奥鬼怒~湯西川~南会津の秘湯を3日間かけて巡るという旅に出て、11か所の秘湯を訪れました。一方、先日の台風18号の大雨災害の直後だったため、各地で被災の現状を目の当たりにし、平地の少ない日本において切っても切れない土砂災害の脅威も感じました。とはいえ温泉も自然資源、自然とどううまくやっていくかを考えさせられた旅でもありました。



URBANDESIGN
LABORATORY